

書 評



情報システムと情報技術事典編集委員会（編）

情報システムの実際

培風館，

1. 官公庁・公共サービスシステム
223p., 12,000 円（税別） ISBN4-563-01709-4
2. 商業・小売業・病院等のシステム
190p., 11,000 円（税別） ISBN4-563-01710-8
3. 製造・建設・サービス等のシステム
249p., 13,000 円（税別） ISBN4-563-01711-6
4. 経営実務・開発管理・研究支援システム
208p., 11,000 円（税別） ISBN4-563-01712-4

この一連の冊子は、現在編纂中の「情報システムと情報技術事典」（編集委員長 浦昭二慶應義塾大学名誉教授）のために執筆された原稿の一部を、事典全体の完成を待たずに冊子として編集し出版したものである。

情報システムの概念が生まれその技術と基礎にかかる学問領域が認知されてから四半世紀に満たないが、この短い年月の間の進歩・発展と実社会への普及・浸透は、ドッグ・イヤーという言葉が用いられるほどに急速である。したがってこの分野で大規模な事典を編纂するのは至難の事業であるといわねばならない。企画を立ててから原稿が集まり書籍のかたちになるまでに早くも内容が陳腐となり、構成自体さえ不適切になってしまう可能性が大きいからである。このような観点からすれば、集まった原稿をこのようなかたちで出版することにしたのは編集委員会の賢明な選択であったといえよう。

事典本体は出版元の培風館が 1989 年に刊行した「情報システムハンドブック」の後継として企画されたもので、完成の暁には

- 第 1 部：情報社会と情報システム
- 第 2 部：情報システム事例
- 第 3 部：情報技術の基礎 人文社会科学・自然科学
- 第 4 部：情報技術の基礎 コンピュータ・ネットワーク

という 4 部作になる予定と聞く。

今回出版されたのは事典の第 2 部のために用意された原稿をまとめたもので、情報システムの事例集である。その概要を紹介すると、第 1 分冊には

- 第 1 章 官庁のシステム 9 例
- 第 2 章 住民サービスシステム 11 例
- 第 3 章 ユーティリティーサービスシステム 9 例
- 第 4 章 交通サービスシステム 10 例

第 2 分冊には

- 第 1 章 医療・病院情報システム 6 例
- 第 2 章 金融・証券システム 9 例
- 第 3 章 商業・流通システム 14 例

第 3 分冊には

- 第 1 章 製造・物流関連システム 27 例
- 第 2 章 建設業・ビル管理システム 5 例
- 第 3 章 その他サービスシステム 8 例

第 4 分冊には

- 第 1 章 ERP 事例・経営・業務システム 13 例
- 第 2 章 システム管理・開発システム 3 例
- 第 3 章 その他情報システム 5 例
- 第 4 章 研究支援システム 7 例

の広汎かつ豊富な事例が収録されている。

もとより情報システムのすべてのタイプを網羅しつくすことは不可能であるが、ここに収録された事例はそれぞれその分野の典型的な例である。いずれもしかるべき専門家・実務経験者によって執筆されたもので、さまざまな立場の人にとって参考となり有用な情報源となるに違いない。ただし中項目形式の事典のために書かれた原稿を基にまとめたものであるから、それぞれの項目に割かれる紙数は限られており、内容の掘り下げと広がりには制約があるのはやむを得ない。参考文献も原則として付けない方針で、項目間のクロス・レファレンスもないから、初学者がこれらの冊子のみによって発展的に学習しようとする場合には多少の困難を伴うかもしれない。しかしそれは、事例集という観点からすれば大きな瑕疵ではあるまい。

それよりも深刻な問題は、最初にも触れたようにこの分野の技術の進歩があまりにも急速な点にある。すなわち今後この分野の事典は、最新の情報を提供するという目的ならば従来のように印刷物のかたちをとることは難しく、随時更新可能な電子メディアに依らざるを得なくなるであろう。しかし一方では、過去の発展の過程を記録に留め置くことも重要である。なぜなら、一般に新たな進歩は歴史の上に築かれるからである。その意味においても、この一連の冊子は貴重である。

（有山正孝／電気通信大学名誉教授）

